

## 地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重
  - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
  - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
  - (4) 安心と安全を支える支援
  - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
  - (1) 居心地のよい環境づくり
  - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

### V. サービスの成果

#### ※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

#### ※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホームやさしい里

ユニット名 2階

自己評価実施年月日 平成 21年 2月 10日

記録者氏名 岡本 秀子

記録年月日 平成 21年 2月 14日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳を基本に、地域社会の一員としての権利が保たれ、日常生活を送ることができるよう施設の運営方針で明確にしている	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや現場で絶えず確認しあい、実践できるような心がけている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営の理念、基本方針を施設内に掲示し、家族や来訪する地域の皆さんにも明らかにしている	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な挨拶は勿論、年末のイルミネーション、5月のこいのぼり、夏のよさこい踊りなど地域の皆さんに喜んでいただけるように努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域内の一斉清掃、不燃物収集、夏祭り、敬老会等地域活動に積極的に参加している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	災害時における自主避難場所として地域に開放。特にトイレは中水を活用しているため、災害時でも使用できる可能性が高いため、非常時には地域の皆さんに活用してもらえようとする。運営推進会議でも報告。	○	グループホーム便り等を通じ地域にPR
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘事項が施設の業務の質の向上につながるの理解のもと、全体が目を通し、可能な限り改善するように努めている。例：定期的なGH便りの発行		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議毎にテーマを決め、その取り組みや課題、問題点を報告、意見をもらうようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的ではないが、適宜指導を仰いだり、相談を持ちかけ、時には問題提起を行い連携を保つように心がけている。さらに市内西部に立地するGHで連絡会を結成、行政も一緒になって意見交換等を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	具体的な取り組みを行っていない	○	今後、講習会等への参加を行い、理解を深めていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止マニュアルを作成し、事業所内での取り組みは行っているが、自宅での実態の把握までは至っていない		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結以前に利用者、家族との面接、施設見学を行うとともに十分説明を行い契約をしている。また解約にあたっては十分理解を得るように努め、他施設、医療機関等家族の期待に添えるように努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当職員や、「ご意見箱」の設置。また、利用にあたっての説明の際に行政の苦情・相談の窓口も紹介している。	○	苦情処理委員会の設置
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的なGH便りの発行の他、金銭管理、健康状態についての報告、施設内や行事の写真を送付		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当職員の選任や、「ご意見箱」の設置。	○	(苦情処理委員会の設置)
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見、要望等を聞く機会を設け、運営に適宜反映。	○	(行事等運営に関する提案などをより反映できるような仕組みづくり。)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	限られた人員で困難な面もあるが、利用者の状態の変化や要望に対応できるよう、協力し合いながら調整に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職等で職員が代わる場合は、馴染みの職員とセットで対応できるように努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り職員の研修への参加に心がけるとともに、参加者による報告や、他の施設での取り組みの紹介等を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内西部地区にあるGH間でのネットワークづくりを行い、行政も加え情報交換や相互訪問等を実施している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティング等で職員から自由に意見や仕事上での悩み、労働条件に関する意見などが出せるような雰囲気作りに心がけている。また慰安旅行や、忘年会への補助等福利厚生面での対応も行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職場に出向くなど職員との対話の機会を確保するとともに、勤務状況を把握することを心掛けている。また、良い点は全体に紹介する等向上心の醸成に努めている。研修への派遣等の機会を増やす取り組みを行っている	○	資格取得を推奨するためにも資格給の幅の拡大も検討している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の利用者、家族との面接等での情報収集、特に本人の成育歴、趣味、病歴等は詳しく収集するように努めている。そのことが信頼関係を築く上で重要との職員全体の認識。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の利用者、家族との面接の実施。介護支援専門員との連携やサービス状況の把握に努め、早期の施設での援助内容の確定につとめている。また、経済面での相談にも対応し、行政への働きかけなどを行っている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関の紹介や診察支援。生活保護受給に向けた支援等経済的な生活相談	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設の雰囲気より早く馴染んでもらえるよう、家族とも相談し、「通い」や「お試し」なども紹介し、利用者の納得を重視した取り組みをおこなっている。また、入居当時は入居前の暮らしぶりを基本に見守りを主体としたサービスを心掛けている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が一番輝いていた頃の情報をもとに、会話の時間を重視し、特に本人の昔話を傾聴しながら、信頼関係を築くことを心掛けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	いつでも気軽に相談できるようにし、認知症の理解を深めるため施設での実践をもとにした説明の実施。	○	(施設の行事等への家族の参加の検討)
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族としての関係を維持していくために、緊密な情報提供やGH便りの送付等を行っている	○	(施設の行事等への家族の参加の検討)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前の情報で把握できた友人等に連絡し面会に来てもらったり、入居前の地域の行事への参加やドライブ等を実施。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食卓の場所の交替や写真撮影、買い物等の外出などお互いの関わり合いを大切にした取組を行っている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時には他施設や医療機関等利用者の状況に応じたサービスを受けることができるよう対応している。また、いったん退去した人が再度入居希望があり受け入れたケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時における担当者会議や入居者、家族の意向等を把握して計画を作成している。定期的なモニタリングを行い利用者、家族の意向に沿ったサービスの提供に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当介護支援専門員、家族を中心に幅広い情報収集に努め、本人が思い出せないことを含め状況把握に努めている。	○	遠隔地での一人暮らしが長い利用者の情報の収集の工夫
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人、家族等から入所前の生活歴を把握、必要に応じて医療機関への問い合わせ、主治医の意見書の取り寄せを行い、総合的な状況把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を中心に、担当者会議で介護スタッフ全体で計画作成に取り組んでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じたモニタリングの実施。また臨機応変に利用者の状況に応じて、家族や関係者を協議し現状に即した計画の作成を行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、業務記録への記入を行い、情報の共有、サービスの提供に生かしている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支 援をしている	併設の通所介護利用者との交 流、行政機関との折衝や制 度の利用等の支援を実施	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に 応じて、民生委員やボラン ティア、警察、消防、文化・ 教育機関等と協力しながら 支援している	民生委員、地域にある行政 機関、保育園、小学校から も協力していただいている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に 応じて、地域の他のケア マネジャーやサービス事 業者と話し合い、他のサ ービスを利用するための支 援をしている	実施していない	○ 必要に応じ取組んでい きたい
42	○地域包括支援センター との協働 本人の意向や必要性に 応じて、権利擁護や総合 的かつ長期的なケアマネ ジメント等について、地 域包括支援センターと協 働している	実施していない	○ 必要に応じ指導を得 ながら取組んでい きたい
43	○かかりつけ医の受診 支援 本人及び家族等の希望 を大切に、納得が得られ たかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適 切な医療を受けられるよ うに支援している	協力医やかかりつけ医と 看護職員を中心に気軽に 相談でき、往診を含め適 切な医療が受けられる状 況にある。また予防接種 やボランティアでの定期 的な訪問診察や相談の機 会もできている。	
44	○認知症の専門医等の 受診支援 専門医等認知症に詳しい 医師と関係を築きなが ら、職員が相談したり、 利用者が認知症に関する 診断や治療を受けられ るよう支援している	相談や気軽に受診できる 医療機関があり、利用者 の不穏時等に随時相談、 受診、投薬が可能である。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置し、日常の健康管理、医療機関の活用の支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	各病院の医師や相談員あるいは地域医療連携室党から入居者の情報提供を受けたり、カンファレンスに参加して状況確認等を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の高齢化、重度化が進む中、看護職員、管理者を中心に家族や医療機関との話し合いをすることとしている。実際に終末期のサービスを行った施設の情報収集し、具体的な対応についての検討を始めたところである。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	実際に看取り介護を行った施設の状況の説明を受けこれから施設としての具体的な対応を検討していくこととしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	管理者を窓口施設間での情報提供を個人情報使用同意書に基づき行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を第一にサービスを提供しており、誇りやプライバシーを傷つけるような対抗は職員間で十分気をつけあうこととしている。また、記録等は個人情報保護に十分配慮した対応をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の考えや主張をまず受け止め、場合によっては時間をかけ、分かりやすく説明し、納得を得ながら穏やかな暮らしができるよう心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間等については、利用者の意向を酌んで決定、外出についても行き先を希望に基づき実施。さらに施設内でもゆったりとした「時間のながれ」の中で思い思いの暮らしができるように心がけている。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は希望者は本人の希望する店に、そうでない人は出前でできるようにしている。また、髪形も本人の意向を酌んで満足ができるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみであり、献立もなるだけ希望を聞いて決めるようにしているが、準備等は困難なため、できる人が簡単な後片付けを職員と一緒にやっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	週何回かは利用者と一緒に買い物に出かけ、好きなものを自分で買って楽しんでもらうようになっている。酒は以前好きで飲んでいた利用者もいたが、ドクターストップでダメになり、たばこは施設内は禁煙としている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄確認票を作成し2～3日排泄が見られない利用者をチェック。服薬やマッサージで排便を促している。頑固な便秘は医療機関に相談。	○	自立を目指す介護の実践で、水分、運動、食事と県連づけた排便の自立が可能となるよう取り組みを実施している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により、週3回の午後に入浴しているが、夏場などには本人の希望によりシャワーや入浴が可能。	○	昨年の評価で指摘があり、小さな浴槽で個々に入浴をと誘導を試みるも、怖がって拒否反応が示された。今まで以上に入浴時間をゆっくりとり、十分楽しんでもらえるよう心掛けている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠気があるが、ベッドで休息することが自己決定できない利用者には時間をきめて休息できるよう援助しているが、昼から寝ることへの罪悪感を持たれている利用者にはなかなか困難である。現在、運動と食事、水分、排便の基本的な生活習慣の中で安眠の可能な状態を作り出す取り組みを実践中。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	重度化した利用者は困難な面もあるが、簡単な食事の後片付けや洗濯物を畳んでもらったりしている。また、行事等で得意な歌や踊りを披露できる機会をつくり、生活に張りができるよう取り組んでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が預かっているが、買い物や外食の際なんかに自分で支払いができるように心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩や菜園の世話、日用品の買物、ドライブなど外出の機会をなるべく多くとるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節にあわせ、気分転換を兼ねたドライブや外食の機会をつくっている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は各部屋に電話を引くことができるようにしているが、施設の電話は無料で利用できるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に設けず、いつでも気軽に訪問していただけるようにしている。また改装を行い、宿泊も可能となった。食事や飲み物を利用者と一緒楽しんでもらうことができるようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、職員全体に徹底している。さらについ見逃しがちな言葉による拘束について、職員同士で注意し合うこととしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の入り口を除き鍵はかけないこととしている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室を除き施設の外周、入り口等に防犯カメラを設置。さらにナースコールで異常時には連絡できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やハサミ、洗剤等については安全に配慮した保管をしているが、利用者の状態の応じてハサミ等職員と一緒に一緒に利用できるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	知識、実践が不足	○	(リスクマネジメントの研修の実施)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得、応急手当、A E G の使用方法等の講習会を実施。緊急時の連絡体制網の整備。	○	(毎年定期的な開催)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通報、避難、消火活動の訓練の実施。運営推進会議で、施設の消火設備の視察、説明を実施するとともに、非常時における地域、行政機関への協力を要請。緊急時対応マニュアルの作成。	○	(重度化のため、夜間の非常時に困難性を伴い、この課題の克服のための検討)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	機能状態に応じ、ベット柵の一部使用および家具の配置等家族の同意を得て行うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックの徹底、排泄、食事、水分のチェック等行い、異常が察知された場合は管理者及び看護職員を中心に職員全体に情報を伝達、早めの対応に心掛けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理の徹底。新たな服薬が開始される場合は、その薬の目的、副作用等について職員に徹底。食事毎に服薬準備、確認を行い、日々の健康状態の確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分、食事、運動との関連づけを行い日常生活の中で予防に努めるようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、援助を行っている。必要に応じ訪問歯科診療の口腔ケア指導の依頼し支援を受けている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給については毎日量のチェックを行うなど、管理に努めている。また食事については定期的に専門的な立場で栄養士のアドバイスを受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対応マニュアルを作成。研修を行い予防、発生時の適切な対応に備えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具の衛生管理の徹底。食材については原則毎日の購入に心掛けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭的な雰囲気作りのため、玄関周りの植え込みを造り、入り口から居室まで段差の解消がされたつくりになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出すため、地元木材を使用し、採光にも配慮した空間づくりをしている。季節の花や写真等で季節を感じ、金属音がしない落ち着きのある暮らしを実現させるよう努力している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小溜まりや休憩所等利用者同士がくつろげる空間がある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れたものをなるべく持ちこんでもらうよう依頼し、利用者が戸惑うことなく、そして居心地よく暮らすことができるよう心掛けている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	匂いが気になる部屋には、消臭機を設置、エアコンも各居室で温度調整が可能であり、建材等も自然素材を使用するなど快適な環境づくりを心掛けている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	廊下、トイレ等に手すりの設置、段差の解消、滑り止めのカーペット、扉は引き戸にするなどの工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗しがちな利用者の居室にさりげない案内になる目印や、居室によって違う暖簾を掛けるなど自分の居室が分かるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設敷地内にある菜園や花壇等で四季折々草花に触れたりして楽しんでいる。また花の好きな利用者はベランダで鉢植えなどを楽しんでいる。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方々の人間の尊厳を第一に「生きることの喜びを感じながら生活できる」ことをめざし、食事や外出等楽しく生活できるよう特に力を入れています。